

「サンゴの村宣言」

SDGsプロジェクト

「地域資源を活かした恩納ブランドの確立」

世界「サンゴにやさしい村を宣言」



恩納村企画課 主事 ・ 富着 開

恩納村は、沖縄本島のほぼ中央部西海岸に位置し、長大なイノー（サンゴ礁がある浅瀬）、恩納岳を中心とした山並みと40余りの川などの風光明媚な自然環境に恵まれ、年間300万人の観光客が訪れる国内有数の観光リゾート地として成長してきました。この恵まれた自然環境は、村民が生活を営む上でも重要であり、豊かなままた世世代に引き継ぐ必要があります。村として、改めて自然の恩恵なしでは生きていけないことを認識するとともに、行政・村民・事業者が一体となった、環境



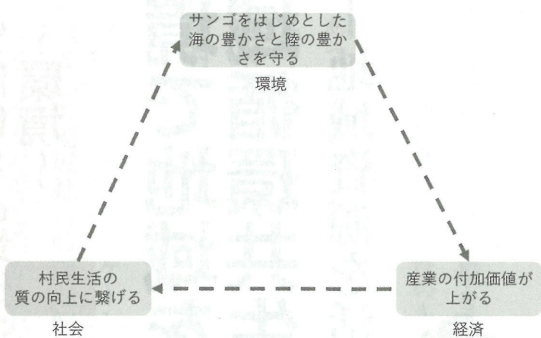
Sunnaちゃん

負荷が少ない持続発展可能な社会に向け、自然環境に優しい地域づくりを目指すため、2018年7月に「サンゴの村宣言

で、他国では国主導ですが、自治体として導入するのは日本初です。そのガイドラインの中では、「サンゴの上に立たない」「海洋生物に触らない」「餌付けしない」などの各種禁止項目や推奨項目が掲げられています。本村では、自然環境の保全はもちろん、マリンスポーツ商品価値の向上を目的に村内でGreen Finsを広めていきたいと考えております。また、Green Finsを導入することで、①ダイバーの自然環境保全に対する行動の質が上がる②サンゴ礁が保全されている綺麗な海になる③顧客満足度が上がって、単価・顧客数共に増加する——ことが期待されます。

ローカル認証で「恩納ブランド」確立へ

ローカル認証とは、陸や海、環境や人々の生活に配慮した特産物やサービス（例えば有機農法で栽培した野菜等）などの特産品のうち、村が定め



循環を意識した恩納村SDGs

「世界「サンゴにやさしい村」を出しました。サンゴの村宣言をきっかけに、Sunnaちゃん（サンゴの村宣言オリジナルキャラクター）を活用した商品開発や、サンゴ礁保全イベントを開催するなど、恩納村が自然環境保全に重点的に取り組んでいることを周知する普及啓発に力を入れていました。しかし、普及啓発をしていくうえで、ある問題に直面します。それはイベントに参加してくれる村民が少なかったことです。村民の意見としては、「自然環境保全が私たちの暮らしにどうつながるの?」という声が多くありました。自然環境保全をすることで恩恵を受けているのは観光事業者で、自分たちが恩恵を受けているとは感じていない、という方が村民の中にはいるということ。その理由として、観光産業に携わっている村民の方が少ないこと、オーパーツーリズムで村民の住環境にも支障をきたしていること、村の特産品が観光施設で取り入れられていない等の背景がありました。

一定の要件にあてはまったものに対して付与し「恩納ブランド」を確立する仕組みで、数年以内の実現を目指しています。本村でローカル認証を導入する背景には、多くの観光客が訪れているにも関わらず村の特産品が村内観光施設などで取り扱われていない問題や、生産者の工夫が価格に反映されていないといった問題があります。こうした状況に対して、特産品の魅力を発見し、村が認定するという新たな価値をつけて村内外に広めていくことを期待しています。また、特産品が観光施設で取り扱われることで、村民生産者と観光事業者がローカル認証を通じて連携し、観光の恩恵を受けていると感じる機会が増えていくのではな

中学3年で商品開発の学習

恩納村唯一の村立中学校である「うんな中学校」では、地域の課題を肌で感じ、解決していく成功体験を持ってもらおうと考え、中学3年生に村内の特産品を活用した商品開発の授業を実施しています。授業を通して、実際に村の課題である特産品のPRや販売方法について考え、大人が決めたことを受け取るのではなく、最終的には自分たちで決断して商品開発を実行します。この授業を通して将来どんな職種に就いても、課題を自分事化し、考える力を育み、次世代を担う人材を育成する狙いがあります。

今後の展望

村の課題では自然環境だけでなく経済面や社会面等のあらゆる課題がありますが、この「サンゴの村宣言」は自然環境保全に重きをおいたビジョンとなっており、豊かな自然環境が身近であるがゆえに多くの村民に響かない部分がありました。

SDGsを活用し自然環境だけでなく、経済や社会課題の解決を!

「サンゴの村宣言」を効果的に生かし、自然環境だけでなく経済面や社会面等のあらゆる課題への取り組みや、「サンゴの村宣言」のサンゴを中心とした環境への取り組みの相乗効果を図るためSDGsによるプロジェクトを推進することとしました。その結果、2019年7月にSDGsの達成に向けた優れた取り組みを行う都市として、「SDGs 未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。この「SDGs 未来都市」に選ばれたことを機に村の目指す姿を「世界「サンゴにやさしい村」から「世界「サンゴと人にやさしい村」に改め、今までは自然環境保全の取り組みが中心でしたが、SDGsの理念を取り入れることでサンゴ礁保全（環境）から観光業や農林水産業の付加価値向上（経済）、そして村民の暮らしの向上（社会）の好循環を図り村全体の課題を解決するビジョンへと進化しました。

自治体初の「Green Fins」導入

Green Fins（グリーンフィンズ）とはUNEP（国連環境計画）が定めた自然環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドライン。これまでは、環境と経済の課題を中心に取り組んできましたが、今後は社会面などの村民の生活課題に裨益する取り組みを充実させていきたいと考えています。世界「サンゴと人にやさしい村」を目指していくうえで、村民の生活が豊かになれば、より多くの村民に自然環境を保全することや経済を循環させる意義が伝わり、誰一人取り残さない世界「サンゴと人にやさしい村」が実現できるのではないかと思っています。その他、定住関係の整備等、住みよい村にするための具体的な課題にどう取り組んでいくか、行政、村民、事業者が一体となって、あるべき姿の実現に向けた村づくりに取り組んでいきたいと思っています。



恩納村2030年のあるべき姿